



76  
1185

七

長崎関元録序 廣照

夫著而小能禁者此謂解為杜  
 既缺左傳五濟耽了或猩嗜  
 酒聖物嗜油鼠是此可謂解  
 其而得聖物而解之飲也  
 杜既王論二缺者是解而所不





孤者也。然名不顯。亦不顯。其  
楚。年。子。年。靈。之。顯。亦。幸。春。遊。  
時。由。其。之。多。其。又。乙。卯。來。游。  
時。由。居。後。之。多。其。年。靈。之。  
雜。談。及。時。由。之。風。似。華。記。為。卷。  
名。內。長。時。同。見。錄。以。持。以。為。

淡。柄。寫。蓋。其。心。年。以。其。如。杜。氏。  
王。滴。以。其。鐘。然。又。其。於。釋。之。聖。  
和。所。嗜。或。自。誇。以。足。笑。同。見。因。  
名。其。卷。是。年。之。解。其。  
寬。政。丁。巳。初。春。

平安

廣川



長崎開見錄 卷之



長崎聞見録卷之壹  
 長崎風俗事  
 長崎神事  
 長崎盆會  
 野牛  
 魯雞  
 魚子魚  
 松子魚  
 かい巻  
 さたこ

長崎聞見録卷之壹

目録

長崎風俗事

打歌

麩香

家猪

烏骨鶏

獅子頭金魚

あひむき

滝木鱈

長崎神事

長崎盆會

野牛

魯雞

魚子魚

松子魚

かい巻

さたこ

長崎聞見録 卷之壹 目録



とくしひ

鹿言貝

海草根

踏湯野菜

如意樹

對州風景

唐名凡

高菜

烟草切庵丁

釜貝

くらくら

浪屋

椒摺

大名竹

唐菜

もや

長崎聞見録卷之一

長崎の風俗男女品宜しく庶民平和積貯るるに由り。俗其地を以て八州の寺田

うてやうゆりなるともあり。然中酒肴の吏反りてくる事そ。此吏更には天下

才のほゆる地なり。此の地はさかひて。此の地はさかひて。此の地はさかひて。

勢亦向ふ向ふとて。暖和風なり。冬月極る。此の地はさかひて。此の地はさかひて。

嗜しあり。會宴興多し。此の地はさかひて。此の地はさかひて。此の地はさかひて。

○諏訪大明神。九月九日長崎大あり。此の地はさかひて。此の地はさかひて。此の地はさかひて。

思ひく。小田を。此の地はさかひて。此の地はさかひて。此の地はさかひて。此の地はさかひて。

諸役人等の屋敷も。此の地はさかひて。此の地はさかひて。此の地はさかひて。此の地はさかひて。

物と飲酒。此の地はさかひて。此の地はさかひて。此の地はさかひて。此の地はさかひて。

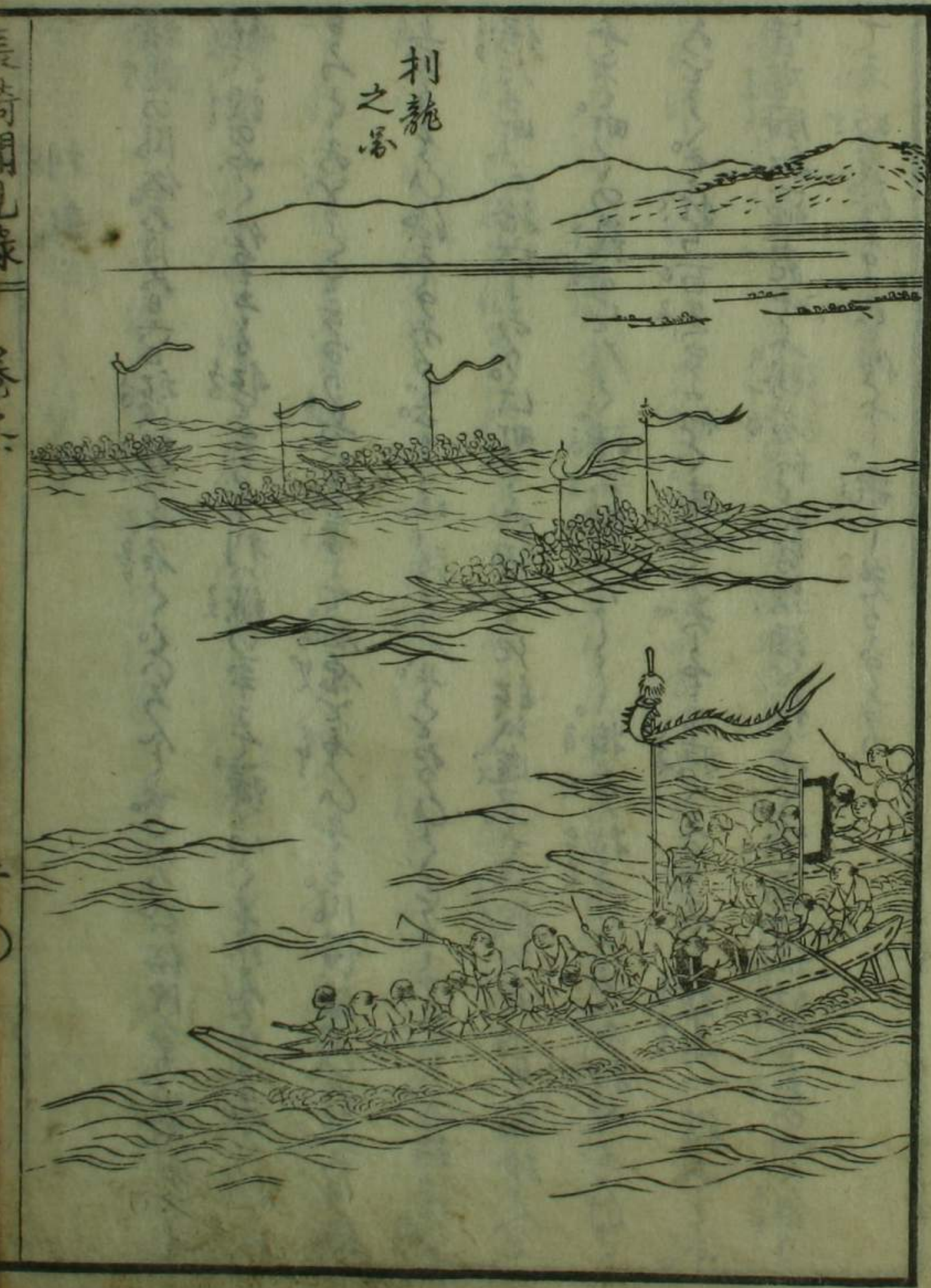
此の地はさかひて。此の地はさかひて。此の地はさかひて。此の地はさかひて。





急須を三辨其一二分ありと  
 餘ハ損くぬる金とあり





長崎聞見錄 卷之二



刊龍

長崎の風俗。五月六日紅紙競り。名くはうんをふん俗に云り。龍は紅紙を  
龍の頭のみく。作する船をさうり刊の儀の事。謙と云く是れをさうりや。龍は  
とんとあとうくとさうり。是れを唐にて原と云ひする。風俗はさび。五月六日。海  
上はさうり儀をさうり。さうり時陽志人。是れをさうり。さうり。長崎海濱  
俣たる町。之拾六丁あり。は町。あ切れ。紅紙造り。一艘の舟。凡之四拾人  
をさうり。町の龍をさうり。種大龍。さうり。掛多拍子紙。さうり。お枝をさうり。  
あとうり。さうり。百是也。似く。其のさうり。さうり。又さうり。一艘おとふ。  
皆庖厨紅一艘。宛々。芳終。皆飲酒をさうり。又凡の儀。紅紙。宛々の如く。親  
て。寄妓。後伝。をさうり。樂。一。さうり。さうり。

長崎血祭の度

長崎の風俗。七月十三日。連火。十五日。送り火。暮前。人々。さうり。親  
け。紅紙。親。く。その暮。皆四方。山。く。あ。一。家。あり。さうり。親  
く。夕。人の墓。へ。年。未。終。さうり。夕。なり。墓。と。さうり。墓。れ。さうり。毛。徳。終。  
猶ほ。子。提。酒。多。飲。持。ち。く。未。終。さうり。人。と。登。意。礼。と。い。叔。養。母。く  
船。と。作り。生。具。飲。食。中。さうり。種。の。もの。と。皆。終。け。紅。紙。を。山。に。呼。ん。び。り。と。多く。掛  
つ。ね。と。お。り。さうり。船。一。二。月。も。あり。人。様。人。拾。人。も。あり。また。倉。の。お。り。  
船。の。さうり。人。中。と。持。ち。さうり。あり。大。波。岸。の。海。濱。と。い。く。舟。を。付。く。推。流。と。い。く。  
海面。さうり。や。さ。と。流。を。り。さうり。船。の。足。は。お。り。さうり。痛。む。人。が。く。暗。は。さうり。  
妙。の。さうり。船。く。さうり。





長崎開港録  
卷之二



麝香氣きさうけき

麝香氣をとりて磨りこもりたるものにて、長崎にゆき、他國より来たものありこのねど、は角るく書きあり。空眼をえぐく。麝香を食馳氣小似たり。長崎の人け氣の能るく氣味。古世とくう効るなり。

野牛やぎう

野牛を。商人賣人食料とてふなり。梅佐立山道不似ゆき。

商人賣人より事なり。きうらなよ一倍に。ごよはせられた。き小こののかり味もまた。好いよ及ぶ。きうれをいひく。焔うんおおかかききだだ。考たしひもの多たともく。ごよりもき優あまなり。毛きをくか白也なり。く人。列うれんく。食くは思おもびびるものなり。

家猪けち

家猪を。商人紅毛人あくの食料なり。長崎立山又ハ梅佐立山道不似ゆき。商人紅毛人あくの食料なり。あり時。猪ちは似にく。よく肥えたるものなり。



麝香鼠  
漢名香鼠



羊の類なり  
漢名未詳  
野牛和名也

野牛



家猪



家猪 猪ノ類ニシテ家畜スルモノ也其肉ハ食スルニ可ク其皮ハ製シテ履クニ用ヅル也其尾ハ巻クニシテ其毛ハ製シテ布トシテ用ヅル也其乳ハ製シテ油トシテ用ヅル也其糞ハ肥料トシテ用ヅル也







此結法と傳ふなり。予もその秘法を尋ね。湯をあらせ。一向沙法も  
 せられども。もたよ海に。雲海と傳ふぬま。彼人の婦もなるべし。秘法  
 書記し。くちを好む人。使す。顔ら鶏の。あか。法を  
 皆をら。く効の。其法。煙の。吸。後。お毛を。多  
 多く。頭。虫。身。く。た。り。ゆ。こ  
 ね毛。け。挿。虫。あ。又。一。挿。ね毛の  
 一。磨。但。二十。二十。お。一。お  
 する。事。二。三。箇。の。あり。く。お。鶏。子。二。三。箇。の。り。た。る。べ  
 二。三。日。合。二。三。日。後。く。お。を。を。腐。る。と。知。る。べ。後。く  
 宜。く。お。お。小。一。日。後。を。あ。を。を。り。て。何。又

大根菜だいこん紙し小こく切きく何なにかたり。鶏けい子しをを入いり。徳とくくく廻まわり。

ちゅうざんが鶏けい子しはは備びううそ。碎くだくくものなり。

後のち洗せんふふ八はち分ぶん八はち切き。是このの尺せき八はち分ぶんあり。冠かんをを八はち切きあり。重おもササ八はち分ぶんあり。

宜よろくく名な鶏けいををいいかかり

魯鶏





鳥骨鶏

長崎に鳥骨鶏。嗜く何人あはる。今く白毛。或は黒羽あり。冠はみみ。  
 激走と常より。は卵補虚の佳品也。其價も卵より倍とるなり。



むらさひ

は貝殻のま。洗き色も。  
 その後の方より肉  
 出たり。伸縮する  
 是也。好むる者  
 用ひ。稀なる貝也。  
 そのま。常より  
 希なり。



獅子頭金魚

は金魚。その頭獅子に似たり。以て名づく。  
 稀なる名魚也。其價も他魚より倍なり。  
 長崎に嗜く人僅あり。面白き魚也。





松子魚

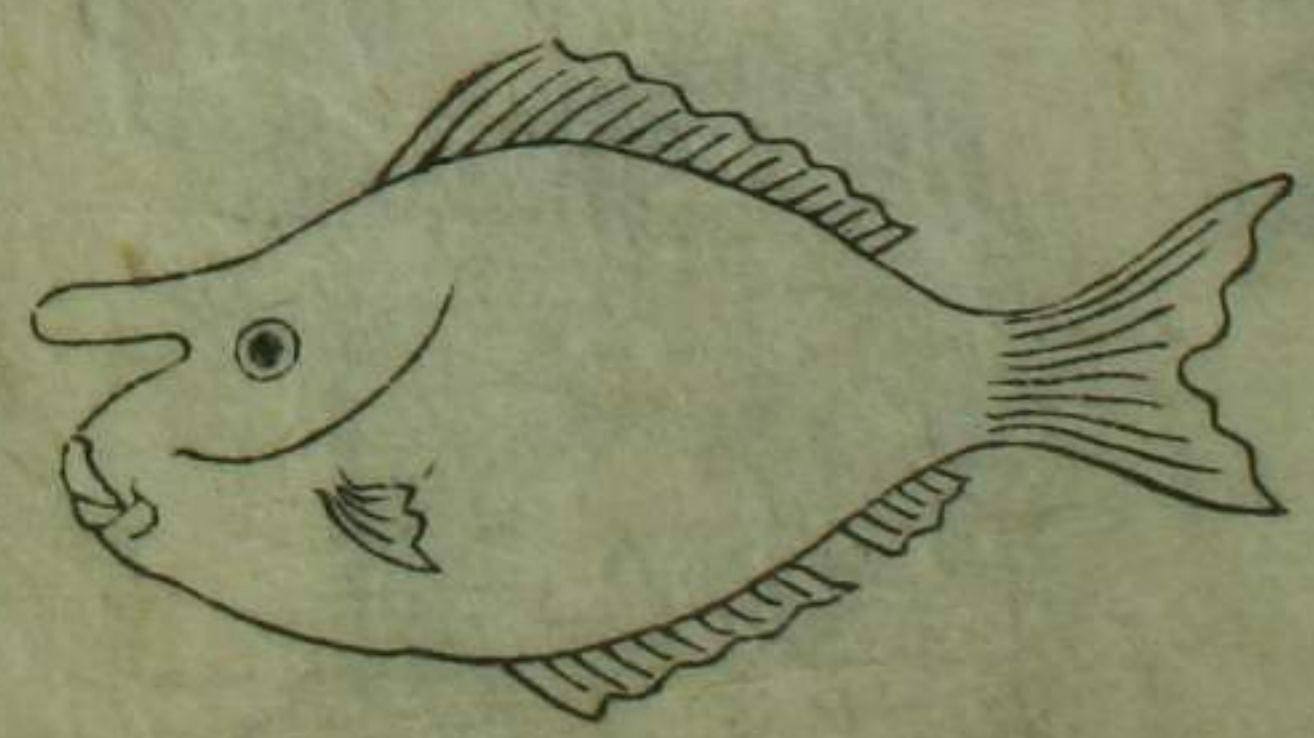
松子魚を唐名あり。尤好味なり。六角の鱗は皮に似たり。皮は剥き食ふ。味ひはみり。大なり。右あり。



松子魚を唐名あり。尤好味なり。六角の鱗は皮に似たり。皮は剥き食ふ。味ひはみり。大なり。右あり。

あじ

あじの人はむらさきと云ふ。鱗は實に厚くあり。鱗やうなる魚は一尺五寸より二尺あり。鱗もあじの魚なり。



かい魚

かい魚の人はうめと云ふ。鱗はむらさき。肌層のうめと云ふ。鱗はむらさき。漢名犁頭魴。



漢名 雙髻魴

雙髻魴の人はうめと云ふ。鱗はむらさき。漢名犁頭魴。



背

腹



さだめ

さだめの人はうめと云ふ。鱗はむらさき。漢名犁頭魴。











碕陽の野菊

碕陽の俗野菊といふ。花の比花はよりて沖より。花種痛徳療。傳。は葉は  
 開。秘。移。野。菊。異。之。尤。葉。莖。滑。細。小。花。え。より。言。さ。り。京。都。東。山。菊。溪。の  
 葉。似。て。れ。も。そ。き。ら。り。も。花。細。小。そ。別。種。の。中。に。葉。研。碎。の。山。野。菊。の。葉。あり。  
 花。は。白。く。高。く

非雞見腸  
 又非野菊  
 即野生單  
 葉菊花也



根莖

水仙之類也

根莖。水仙。似。く。又。花。の。水。仙。根。園。之。花。の。莖。似。く。根。莖。根。平。く。花。は。葉。似。く。是。と。を。別。と。す。根。莖。婦。人。の。乳。腫。研。碎。貼。て。妙。也。花。種。の。葉。用。する。事。あり。大。効。あり。その。花。り



くはくろつらめ

くはくろつらめ。又方言は、ぼんしのいげりのま。樹のまは二丈程とあり。そのまはあをこの  
まよはしく。うすく和らつて。枝は刺あり。実の皮は多子の蜜の似く大なるなり。  
勢をたへ居せよと云。昔、藤原のうとのまを、まはひ

其にあり。

辛味ありて舌と刺とを



如意樹

古傳云、如意樹といふ者の實あり。之を食ふと、心相よくあつて大樹なり。  
夏は瓜の如く、秋は栗の如く、大なる豆の如く、妙に食ふ  
も佳し。

漢名梧桐  
和名あしきり



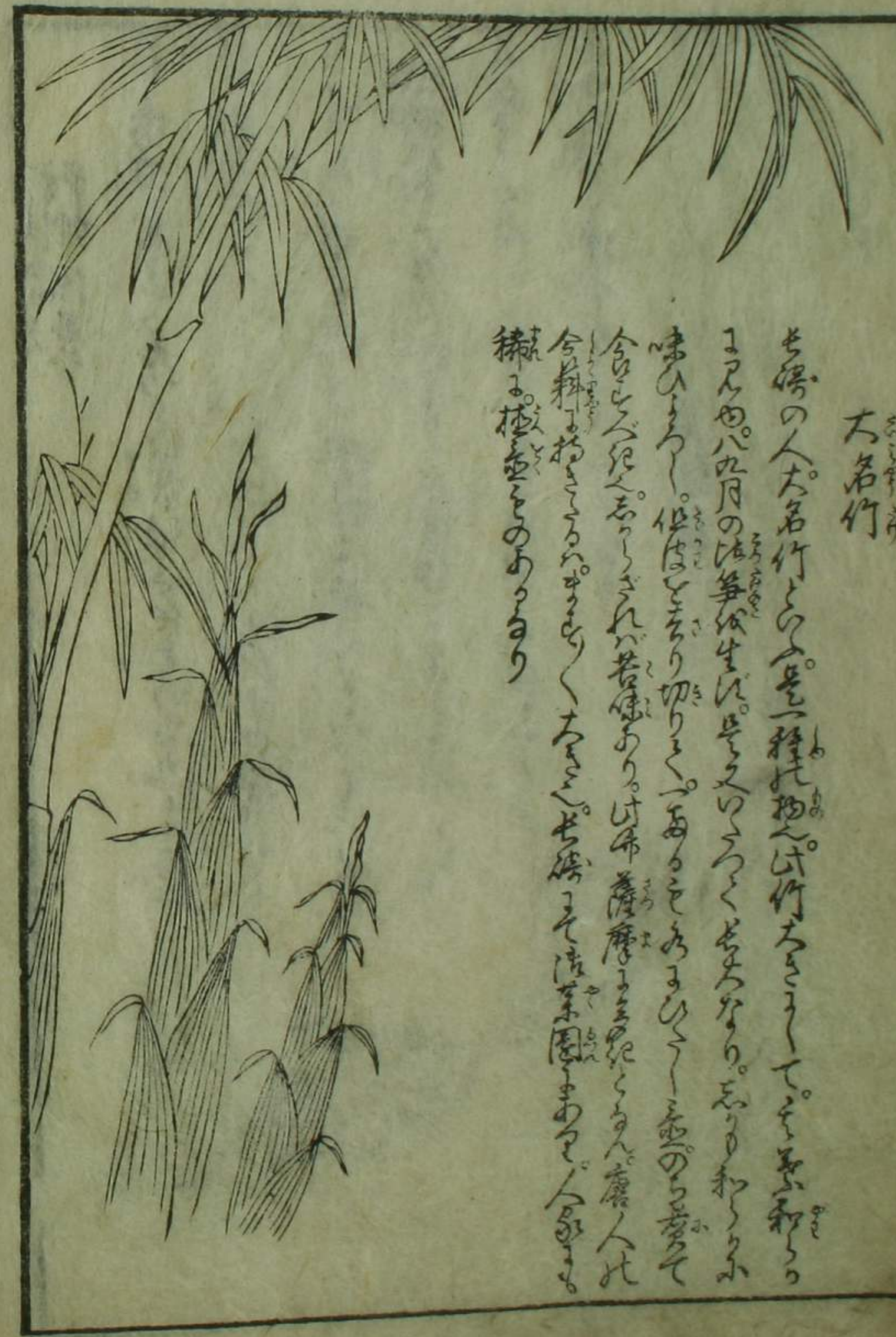






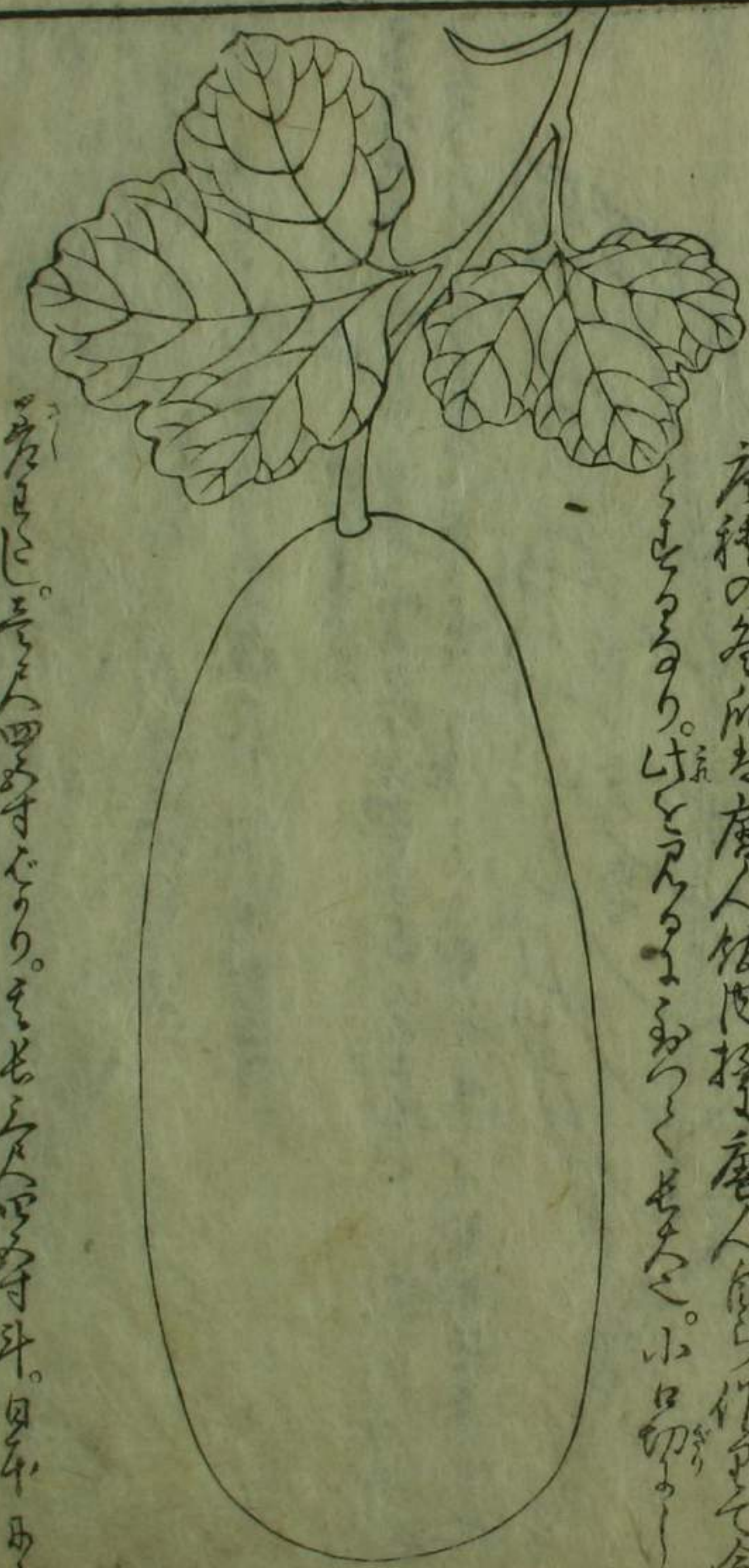
大名竹

昔の人、大名竹と云ふ。是、一種の竹也。竹、竹と云ふて。其、葉、細く、  
 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、の、葉、生、れ、し、て、其、葉、の、長、さ、は、一、尺、二、寸、  
 許、り、と、云、ふ。但、は、其、葉、の、切、り、と、云、ふ、は、其、葉、の、長、さ、を、指、す、と、云、ふ。  
 今、は、其、葉、の、長、さ、を、指、す、と、云、ふ。昔、は、其、葉、の、長、さ、を、指、す、と、云、ふ。昔、は、  
 今、は、其、葉、の、長、さ、を、指、す、と、云、ふ。昔、は、其、葉、の、長、さ、を、指、す、と、云、ふ。昔、は、  
 今、は、其、葉、の、長、さ、を、指、す、と、云、ふ。昔、は、其、葉、の、長、さ、を、指、す、と、云、ふ。昔、は、



唐冬瓜

唐種の冬瓜也。唐人彼国採り。唐人自ら作りて食料  
 として用ひたり。けし、其、葉、は、大、き、く、長、く、小、口、切、り、と、云、ふ。



唐の冬瓜。其、葉、大、き、く、長、く、小、口、切、り、と、云、ふ。昔、は、其、葉、の、長、さ、を、指、す、と、云、ふ。昔、は、  
 今、は、其、葉、の、長、さ、を、指、す、と、云、ふ。昔、は、其、葉、の、長、さ、を、指、す、と、云、ふ。昔、は、



唐菜

漢名菘

唐菜也。唐書云。唐初。唐菜。漢名菘。唐菜也。唐書云。唐初。唐菜。漢名菘。唐菜也。唐書云。唐初。唐菜。漢名菘。



高菜 漢名菘不老

高菜也。唐書云。唐初。高菜。漢名菘不老。高菜也。唐書云。唐初。高菜。漢名菘不老。



菜

菜也。唐書云。唐初。菜。漢名菘不老。菜也。唐書云。唐初。菜。漢名菘不老。菜也。唐書云。唐初。菜。漢名菘不老。





長山園集卷之二  
 九  
 長山園集卷之二  
 九

長山園集卷之二 終



